

JIS

ガラス繊維用語

JIS R 3410 : 2022

(GFA/JSA)

令和 4 年 8 月 22 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	松 橋 隆 治	東京大学
(委員)	安 部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	奥 野 麻衣子	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	木 村 一 弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	是 永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	椎 名 武 夫	千葉大学
	寺 家 克 昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	清 家 剛	東京大学
	高 辻 利 之	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	千 葉 光 一	関西学院大学
	寺 澤 富 雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	渡 田 滋 彦	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	中 川 梓	一般財団法人日本規格協会
	久 田 真	東北大学
	廣 瀬 道 雄	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	藤 本 浩 志	早稲田大学
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	細 谷 恵	主婦連合会
	棟 近 雅 彦	早稲田大学
	村 垣 善 浩	東京女子医科大学
	山 内 正 剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線 医学総合研究所
	山 田 陽 滋	名古屋大学
	和 迩 健 二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 62.12.1 改正：令和 4.8.22

官 報 掲 載 日：令和 4.8.22

原 案 作 成 者：硝子繊維協会

(〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-21-16 日本ガラス工業センタービル TEL 03-5937-5763)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 松橋 隆治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 分類	1
4 表記方法	1
5 用語及び定義	2
5.1 ガラスの基本	2
5.2 ガラス繊維製造工程（ガラス溶融及び紡糸）	3
5.3 ガラス繊維加工工程	5
5.4 ガラス繊維製品	9
5.5 検査及び試験	15
5.6 品質	20
5.7 関連分野	23
解 説	27
索 引	33

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、硝子繊維協会（GFA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS R 3410:2006** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

ガラス繊維用語

Glossary of terms relating to textile glass

1 適用範囲

この規格は、ガラス長繊維及びその製品において用いる主な用語及びその定義について規定する。

2 引用規格

この規格には、引用規格はない。

3 分類

用語の分類は、次による。

- a) ガラスの基本
- b) ガラス繊維製造工程（ガラス溶融及び紡糸）
- c) ガラス繊維加工工程
- d) ガラス繊維製品
- e) 検査及び試験
- f) 品質
- g) 関連分野

4 表記方法

表記方法は、次による。

- a) 対応英語を参考として示す。
- b) 定義の文章の中で用語の後の丸括弧内の数字は、用語番号を示す。